

41 千葉県臨床衛生検査技師会一般検査部門精度管理集計報告（定量検査）

○古谷公英（順天堂大学浦安病院）渡辺一博（松戸市立病院）久代真也（社会保険船橋中央病院）水野由喜子（三菱BCL）田中雅美（成田赤十字病院）安藤正（君津中央病院）西周裕晃（公立長生病院）伊瀬恵子（千葉大学病院）

〔目的〕平成17年度一般検査部門の精度管理、尿定量検査の結果を集計し解析したので報告する。

〔方法〕定量検査は蛋白・糖の2項目を対象とし、試料は尿定性検査と同一のものを使用した。蛋白はHPLC法で、糖は常用標準物質を用いて検定した電極法によりそれぞれ目標値を設定した。

〔結果〕蛋白定量検査は74施設、糖定量検査は85施設の参加があった。

①蛋白：試料AとBの目標値は、それぞれ101.6mg/dlと34.5mg/dlである。試料AではPR法の平均値は107.7mg/dl、CV5.2%、正確度6.0%、PV法の平均値は106.7mg/dl、CV0.5%、正確度5.0%、BPR法は109mg/dl、正確度7.3%であった。試料BではPR法の平均値は35.3mg/dl、CV10.0%、正確度2.4%、PV法の平均値は32.7mg/dl、CV14.5%、正確度-5.3%、BPR法は36mg/dl、正確度4.3%であった。

②糖：試料AとBの目標値は、それぞれ104.7mg/dlと543.5mg/dlである。試料Aでは電極法の平均値は104.1mg/dl、CV3.5%、正確度-0.6%、酵素法の平均値は104.0mg/dl、CV5.5%、正確度-0.7%であった。試料Bでは電極法の平均値は542.3mg/dl、CV2.2%、正確度-0.2%、酵素法の平均値は535.4mg/dl、CV5.1%、正確度-1.5%であった。

〔結論〕蛋白定量では色素法の3法はバラツキも認められず正確度の高い方法であった。糖定量では2法とも収束され正確度の高い方法であった。

047-353-3111

42 千葉県臨床衛生検査技師会一般検査部門精度管理集計報告（定性検査）

○古谷公英（順天堂大学浦安病院）渡辺一博（松戸市立病院）久代真也（社会保険船橋中央病院）水野由喜子（三菱BCL）田中雅美（成田赤十字病院）安藤正（君津中央病院）西周裕晃（公立長生病院）伊瀬恵子（千葉大学病院）

〔目的〕平成17年度一般検査部門の精度管理、尿定性検査の結果を集計し解析したので報告する。

〔方法〕尿定性項目陰性プール尿に、目的物質を添加した凍結乾燥品AとBを試料とした。定性検査は蛋白・糖・潜血の3項目を対象とした。蛋白と糖の目標値は、定量法の標定値をもとに設定した。

〔結果〕蛋白、糖、潜血の定性検査は108施設の参加があった。

①蛋白：試料AとBの目標値は、それぞれ100mg/dlと30mg/dlである。試料Aで100mg/dlと回答した施設は107施設（99.1%）であった。試料Bで30mg/dlと回答した施設は106施設（98.2%）であった。

②糖：試料AとBの目標値は、それぞれ100mg/dlと500mg/dlである。試料Aで100mg/dlと回答した施設は99施設（91.7%）であった。試料Bで500mg/dlと回答した施設は88施設（81.5%）であった。

③潜血：試料Aでは0.06mg/dlと回答した施設が最も多く、62施設（57.4%）であった。試料Bでは0.15mg/dlと回答した施設が最も多く、31施設（28.7%）であった。

〔結論〕定性検査では、特に潜血検査において試薬メーカーごとの設定感度や判定値の表示形式が異なることによるバラツキが見られた。

047-353-3111